

掬が侵入せし際豊原寺に於ける戦功を賞す。

【室町家御内書案】

一一二

今度加州一揆等至當國出張之處、於豊原寺自身討太刀
働之由貞弘物語、尤可然候。向後彌相談貞景(朝倉)、抽忠功者
可爲神妙者也。

永正四 二月

明 王 院

四月四日。温井統永等、鳳至郡岩藏寺を再建す。

【岩藏寺藏棟札】 鳳至郡

一一三

先別當紹賢鐘麥野願主道觀。奉加帳三貫三百文二江

彦五郎、二貫三百文同虎女、三貫三百文藤尾彦三郎、

一貫三百文藤並次郎左衛門。

去明應九年(庚申)中冬上絃七日亥刻火難災、御堂悉令燒

失。一貫三百文牛尾九郎兵衛、一貫三百文二江友員、

一貫文山ノ上彌八。

奉刻彫 御本尊大旦那温井藤八郎統永、當別當快圓。

一貫文金藏中之坊、一貫三百文稻舟助次郎、二貫文江

上馬。
此(河原院)再興大伽藍一宇、同奉入佛御本尊千手千眼尊像。

三貫三百文佐脇玄蕃允、一貫三百文川井九郎左衛門。

同道泉・同妙音・正範。

御堂本尊開眼曼陀羅供唱導高照寺第十四代住持雄鏝。

三貫三百文羽浪飯口、一貫三百文正院禪林院、一貫五

百文柳田法祐入道。

岩永正三(第六行)丁上絃四日勸進沙門奥州相津山郡岩崎寺窪

空眞。二貫文妙幸尼、二貫文敷津太郎衛門・千阿彌。

善阿彌・宗壽。

當大工大力兵衛四郎、小工樋爪衛門九郎、鍛冶小橋兵

衛九郎。二貫文若山延竹

衛、一貫文長慶。

永正六年 己巳 紀元二二六九

七月十四日 統忠、鹿島郡永光寺に、羽咋郡若
部保御給米並びに雜年貢錢を寄進す。

【永光寺文書】 鹿島郡

一一三三

能登國洞谷山永光寺領若部保御給米并雜年貢錢等之事

合陸石七斗七升五合、料足五百文者

右彼御給者、代々私領無相違所納之在所也。然間爲養叟

賢榮大禪定門、次者宗光禪定門頓證菩提、奉洞谷山永光

寺之永代寄進處也。此上者於予々孫々、不可有違亂妨

者也。仍爲後證狀如件。

永正六年己七月十四日

洞谷山永光寺

統 忠 在判

參

(統忠は遊佐氏なるべし。天文元年十月十三日の
條參照。)

八月五日。白山再興勸進道珍、禪頂朝戸開之參
詣井家道者入目之日記を書寫して與へらる。

【白山比咩神社文書】 石川郡

一一三四

毎年六月十八日白山禪頂朝戸開之參詣井家道者入目之日

記

- 一、廿樽 二ヶ
- 一、十五種 二ヶ
- 一、十種 二ヶ

已上每年新調

一ノ宿六月十五日下午白山地藏院住持先達對座廿樽一ヶ新
足壹貫文。

二ノ宿同十六日中宮法臺坊廿種一ヶ新足壹貫文。

三ノ宿大室同十七日先火ノ新宮十五樽一ヶ新足壹貫文。同

天池十五樽新足壹貫七百五十文。

此外

神樂錢 富樫ノ惣社同金釵宮二百文、八幡百文、三ノ宮百
文、大御前二百文、加子宮百文云々。

御本所ノ御代官ハ、鳥帽子 同中間・先達同宿已上二人、合
力八人皆名ニアタテ毎年出ル也。

永正六年八月五日令書寫畢

白山再興勸進沙門道珍仁書与畢。

八月十五日。幕府、山城北野社領江沼郡福田莊